

説 教

聖日礼拝

北浜チャーチ

黒田 禎一郎

2023年5月7日（日）

主 題：「本当に愛しています。」

—聖徒のつながり—

テキスト：第2ヨハネの手紙1章1～3節

**はじめに**

## ・おはようございます

- ・前回、私たちは第一ヨハネの手紙の書簡からの講解説教を終えました。今日から第2ヨハネの手紙に入ります。ヨハネはこの書簡を1世紀の終り頃、エペソで書いたと思われます。
- ・受取人は1節で、「選ばれた婦人とその子どもたちへ。」と記されています。その受取人がだれであるかは、多くの議論がなされてきました。しかし具体的な名前は分かっていません。それでも、私たちはこの書簡から、差出人の愛の心情を文面から知ることができます。
- ・日頃、私たちは手紙や書物を通し、いろいろな人に接することができます。それはすばらしいことです。直接会えないような高貴な人でも、またすでに故人となっている人でも、書いたものは残ります。そしてその人の体験や思想などにふれることことができます。
- ・昔から「文は人なり」(The style reflects the person)と言われてきましたが、文章を通してその人となりを知ることができます。それに、たとい間接的であるにしても、その人との交わりの幸いを味わうこともできます。
- ・ましてや、ヨハネはイエス・キリストの約3年余の公生涯の間、イエスの側で直接話を聞き、語り、ともにイスラエルの地を歩きました。そして愛する主イエスに生涯をささげた弟子でした。その彼が後世に残した文章にふれることは、私たちの心を驚かせるものがあります。
- ・私たちは聖書を開くときに、そのような感動を覚えることができるならば、何と幸いでしょうか。私たちは、ヨハネ第2の手紙を通して、ヨハネの心情にふれていきましょう。 2点

**大切なポイント**1. 愛の呼びかけ1) 幸いな人間関係

- ところで、ヨハネが冒頭で述べた言葉は「私はあなたがたを本当に愛しています。私だけでなく、真理を知っている人々はみな、愛しています。」(1:1) です。
- 皆さん。「本当に愛しています。」と堂々と言える人は、自分の心に正直で勇気のある人です。「愛は名詞ではなく動詞である」とよく言われますが、愛は相手に話しかける力であり行動です。
- 愛は人と人を結び付ける基でもあります。 **コロサイ人への手紙 3章 3:14「愛は結びの帯として完全です。」**
- 愛は感情だけでなく、意志にも働きかけます。感情は残念ながら一定ではありません。感情のみに左右される愛ならば、とても「永遠の愛」とは言えません。そのような愛が長続きすることは望めません。
- 愛はフィーリング的なものでもありません。「愛する」という意志的な力が大切であることを、知らなければなりません。聖書は次のように述べています。 **第一コリント人への手紙 13章 13:13** こういうわけで、いつまでも残るのは信仰と希望と愛、これら三つです。その中で一番すぐれているのは愛です。
- いつまでも残る愛、それは本物です。真実の愛こそ、何物にも優る尊い第一のものです。
- この手紙の書き出しが、「愛の呼びかけ」によって始まっていることは、実に興味深いことです。なぜなら、人と人との健全な関係は、愛という一番優れているものを土台にすることによって、最高の人間関係ができるからです。

## 2) 聖徒の互いの関係

- ここで、仮の話しをさせてください。今、あなた外国に住んでいるとします。そこには電話も SNS もありません。ただ唯一できることは、あなたにできることは手紙を書くことだけです。その時、あなたは北浜チャーチの兄弟姉妹にどのような手紙を書くでしょうか。
- 手紙の冒頭に、北浜チャーチの兄弟姉妹をどのように呼ばれるでしょうか。それは、あなたと北浜チャーチとの関係によりますね。どのような「つながり」を持っているかによって違います。
- ヨハネはこのように述べました。  
**1:1** 長老から、選ばれた婦人とその子どもたちへ。私はあなたがたを本当に愛しています。私だけでなく、真理を知っている人々はみな、愛しています。
- ヨハネは自分だけが受取人を愛しているのではなく、「真理を知っている

人々はみな、愛しています。」と述べました。ここに、主にある聖徒の「つながり」が分かります。

- ・私たちは主様にあって、どのような「つながり」を持っているかが問われます。ヨハネは「愛」にあってと記しています。それはイエスの愛によって救われ、教会につながる聖徒の姿です。私たちもヨハネのように、「私はあなたがたを本当に愛しています。」と記したく願いますね。
- ・イエス・キリストの教会につながる聖徒は、キリストの愛によって「つながり」を持つことは当然で、自然なことです。したがって、愛の呼びかけで始まる聖徒と聖徒の「つながり」は、もっとも美しいものです。イエスの愛が大きく現れるならば、そこには問題も小さくなってきます。
- ・ヨハネは「愛の呼びかけ」で、この書簡を書き始めました。

## 2. 聖徒は「真理と愛」のうちに生きる

1:2 真理は私たちのうちにとどまり、いつまでも私たちとともにあるからです。

1:3 父なる神と、その御父の子イエス・キリストから、恵みとあわれみと平安が、真理と愛のうちに、私たちとともにありますように。

### 1) 愛のうちに生きる

- ・愛のすばらしさを知っても、愛が真理と結びつかなければ、中身の薄いものになってしまいます。
- ・今の時代、愛と名打った多くの事柄があります。「愛」の反乱とでも言える風潮です。恋愛小説で見る愛、メロドラマに見る愛、流行歌で歌われる愛、情死事件に見る愛、蒸発問題に見る愛、同性愛に見る愛等。社会には多くの誤った愛という言葉が飛び交っています。
- ・聖書が教える「愛」とは、このよう人間的な愛ではありません。創造神が与えてくださる「愛」のことです。新約聖書はギリシャ語で記されていますが、その「愛」を「アガペー」(agape)と言います。それは創造神の無限大の聖なる愛、見返りを一切要求しない愛のことです。神が私たちにイエス・キリストを通して、与えて下さった愛です。それがアガペー愛です。私たちはその愛によって、「つながり」が与えられるようになりました。
- ・聖書は、真理と愛が切り離せない関係にあることを語っています。この書簡は1章だけであり、わずか13節しかない短い手紙です。その短い手紙の中に、「真理」ということばが5回、「愛」ということばが同じく5

回述べられています。そこには真理と愛に関係を示す上で意義深いものがあります。

## 2) 真理のうちに生きる

- 真理とは何でしょうか。 広辞苑によれば次のように定義されています。
  - ① 正しい道理。
  - ② だれも否定することのできない、普遍的で妥当性のある法則や事実。
- これは定義として説明される「真理」ですが、実際問題としての真理そのものについて分かったことにはなりません。かつてイエス・キリストは捕らえられ、裁判の座に着かされました。その裁判に立ち会った総督ピラトは、イエスにこう尋ねました。 **ヨハネ福音書**  
**18:38** ピラトはイエスに言った。「真理とは何なのか。」
- しかし、ピラトの質問の背景には、イエス・キリストのことばがありました。**ヨハネ福音書**  
**18:37** そこで、ピラトはイエスに言った。「それでは、あなたは王なのか。」イエスは答えられた。「わたしが王であることは、あなたの言うとおりで。わたしは、真理について証しするために生まれ、そのために世に来ました。真理に属する者はみな、わたしの声に聞き従います。」
- 世界で多くの人々が真理は何か、どこにあるかを求めてきました。哲学者、宗教人、賢人が、真理を求めてきました。しかし、その人々の到達した答えは、あのピラトのように「真理とは何なのか」でした。
- それに対して、イエス・キリストはヨハネ福音書14章6節、次のように言われました。「わたしが道であり、真理であり、いのちなのです。」  
 主イエスご自身が真理であり、真理について証しするためにこの世に来られました。ここに、幸いなメッセージがあります。
- 真理は、イエス・キリストを抜きにして語ることはできませんし、キリストなしで真理を見出すことも不可能です。 **ヨハネ福音書**  
**1:17** 律法はモーセによって与えられ、恵みとまことはイエス・キリストによって実現したからである。
- このように第2ヨハネの手紙には、受取人の聖徒が「愛と真理」のうちに歩むようにという願いが秘められています。そこには神の恵みとあわれみ、そして平安という祝福が待っています。
- キリストの教会につながる聖徒たちの存在と関係は、互いに「真理と愛」のうちに歩むところにあります。いかがでしょうか。

私たちの信仰生活、教会生活、いつの間にか習慣的、習慣的、あるいは律法的になってはいないでしょうか。兄弟姉妹の関係は、聖徒が互いに「真理と愛」のうちに生きるところにあります。

- 生きておられる神と私の関係、それが最も大事なことです。その縦軸がしっかりするならば、聖徒と聖徒の横軸は「真理と愛」のうちに置かれていきます。日々の主とのお交わりであるデボーションは、必須となってきます。
- 私たちも神の愛のうちにあって、幸いな信仰生活を歩むために、神の愛（アガペー）にあって、歩もうではありませんか。

### ま と め

主 題：「本当に愛しています。」

—聖徒のつながり—

- 使徒ヨハネは、この書簡のはじめで「私はあなたがたを本当に愛しています。私だけでなく、真理を知っている人々はみな、愛しています。」と記しました。それは正しい愛の「つながり」の関係です。
- 「愛の呼びかけ」で始まったこの書簡は、受取人への挨拶です。それは「真理と愛」のうちに生きる姿です。私たちも愛の呼びかけで始まる「つながり」を大切にしようではありませんか。そこには神の恵み、神の平安が待っています。

\* God bless you!